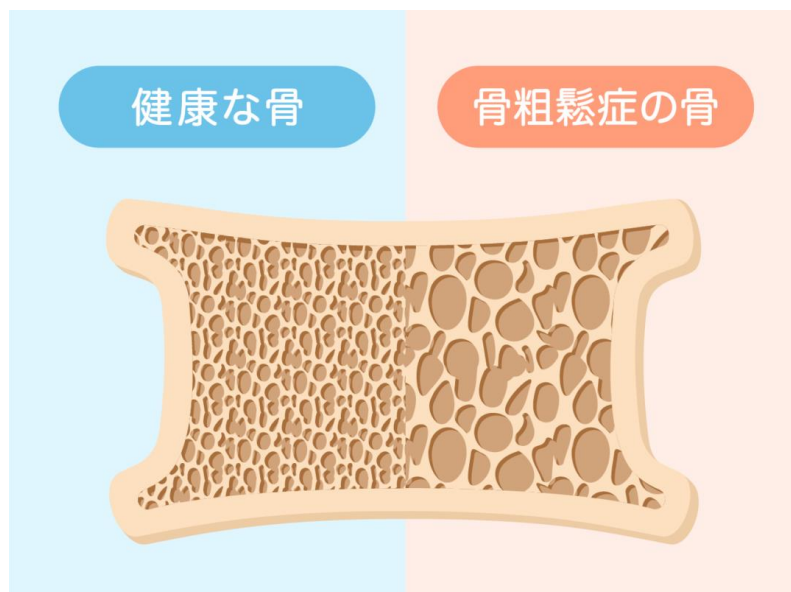


骨粗しょう症外来(火曜日午後)

骨粗しょう症外来開設

骨粗しょう症とは、骨の量(骨量)が減って骨が弱くなり、骨折しやすくなる病気です。些細なことで骨折しやすくなり、背中や腰が曲がったり、背が縮み日常動作や歩行にも支障が出てきます。実際に骨折が起こるまで自覚症状がなく(いつの間にか骨折)、知らない間に進行します。

日本には約 1000 万人以上の患者さんがいるといわれており、高齢化に伴ってその数は増加傾向にあります。



症状のないうちから検査を受けて早期発見をして治療、また予防することが大事です。大多数の骨粗しょう症は女性の閉経後や年齢に伴って生ずる「原発性骨粗しょう症」ですが、他の原因があり、その結果として生じる「続発性骨粗しょう症」や、若い人に生ずる「若年性骨粗しょう症」、男性に生ずる「男性骨粗しょう症」もあります。

骨粗しょう症の診断は、骨密度検査、血液検査で骨代謝マーカ―を測定しています。

当院には骨密度専用の検査室があり、大学病院等で使用される DEXA(デキサ)方式(二重エネルギーX線吸収測定法)(dual-energy X-ray absorptiometry)法の全身用骨密度計測装置を設置して、より正確な骨粗鬆症の診断を行っています。

骨密度の計測法には幾つか種類がありますが、治療効果の判定は DEXA 方式以外では困難とされています(「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン」による)。



骨粗鬆症と診断された場合には薬が治療の中心になりますが、それぞれの患者さまに合った治療の選択を行っていきます。

骨密度検査、骨量測定を4カ月～6ヶ月に1回の割合で定期的を実施し、予防のためのアドバイスを行います。定期実施以外にも、患者さまのご希望があれば必要に応じて検査を実施します。診療はすべて保険診療内で行います。

※原則的に火曜日午後に診療を行っていますが、多くの患者さまに受診いただいているため、月～金曜日の整形外科外来でも対応しています。